

麦の穂が黄金色に 刈取りを迎える麦秋の野田

～県内一の作付面積と収穫量を誇る初夏の風物詩～

市内目吹や船形などでは、令和4年度も「麦作団地」が一面黄金色に染まり、風が吹くと麦の穂がまるで波のように揺れる風景を見ることができる。県内一（作物統計最新データによる）の作付面積と収穫量を誇る大麦・小麦が収穫時期を迎え、5月下旬から6月中旬にかけて、麦の刈取りが始まる。今年は、大麦の刈取りは5月24日までにおおよそ終了し、小麦の刈取りは6月10日頃から始まる。

野田市で本格的に麦が作られるようになったのは、昭和57年から。米の減反政策により、田んぼを集団化して船形に「麦作団地」を作ったのが始まりである。その後、目吹、小山でも麦作団地が作られ、令和4年の野田市の麦の作付面積は、およそ191ha（小麦約163ha・大麦約28ha）と県内最大規模となっている。

刈り取られた小麦はうどんの原材料となる製粉に、大麦（六条大麦）は麦茶に加工される。

《参考》県内の麦の作付及び収穫状況（農林水産省 作物統計：令和3年産）

市町村名	作付面積(小麦)	収穫量(小麦)
野田市	170 ha	639 t
香取市	74	235
横芝光町	85	394
八街市	70	205
市原市	59	273
神崎町	85	267

※大麦については、公表されておりません。

※収穫日は天候等により変動いたします。お手数ですが、取材等は事前に農政課までお問い合わせいただければ幸いです。

問合せ＝農政課・直通 04-7123-1086（担当：山中、佐藤（和））
代表 04-7125-1111（内線 2340）

野 田 市

＜大麦＞



＜小麦＞



＜刈取りの様子＞

